

一 次の文章を読んで後の問に答えよ。

どんな①凡ヨウに見える人でも、世界にはその人ひとりしかいない。そのような感覚を、私たちは確かに抱いて、現代という時間を生きている。

日本では、個人主義が浸透していないという意見もある。しかし、社会における基本的な考え方としては、日本においてもむしろ、「個人」を基礎にものを考えるようになっていっているのではないだろうか。

大学で教鞭を執るある学者に聞いた話である。近代以降の社会の前提になっている、「私」という個人が確固たるものとして存在するという考え方を批判すると、学生たちは大いに②力ツ采するという。何時の時代も若者は、目新しい考え方に感激するものである。「私」などというものは幻想にすぎない。世界は、本当はもつと自由である。そして、「私」と「環境」の間には、本当は区別はない。「私」にこだわってしまったのは、創造的なことはできない。そのような考え方を③紹カイすると、そうだそうだと大いに同意するという。

この話には「ア」。「ア」。「授業の最後に、「君たちは、個人というものが幻想にすぎないことに同意するんだね」と聞くと、学生たちはY頷く。「それじゃあ、君たちがいくら試験勉強しても、そのことと君たちの成績が全く関係がなくなってもいいんだね」と言うと、戸惑うような表情をする。「大学入試も、君たちがどれくらい勉強したかに関係なく決まるということでもいいね」「借金をした人は、別に個人なんてないんだから、返さなくてもいいね」「これほど素晴らしい成果を上げたとしても、個人などないのだから、それによって社会から評価されることもない。それでいいんだね」「犯罪者も、何しろ個人というものはないんだから、処罰されなくてもいいんだね」と「イ」と、「それでは困る」と学生たちは言う。「個人など幻想だ」と随分威勢がよかったのが、急に「A」としてしまおうのだという。

学生たちが育ってきた現代の社会は、個人の努力によって、社会から与えられる報酬が異なることを前提としている。成果主義。自由競争。どれも、それぞれの主体の個性がはつきりと認識され、(a)その峻別が維持されなければ成り立たない。個人は個人であり続ける。そのようなイデオロギーを、まるで空気のように吸って私たちは育つて来ている。

禅僧の南直哉さんによれば、まさにそのような「個人」がその営み次第で、社会の中で評価、処罰といった報いを受ける」という「クレジットのメカニズム」自体が、禅の修行においては問題とされるのだという。南さんが修行した永平寺では、誰かが何かをしたから報われるとか、処罰されるとか、そのような個人を前提にした思考のZ枠組みが解体されてしまうのだという。自分が何をしようとも、どれほどの善行を積もうとも、そのことによって自分に対する評価が高まるということはない。一種の不条理のようであるが、1そのような文脈に投げ込まれなければ気が付かぬことがあるのだから仕方がない。そのような状況に直面して初めて、人は近代を覆っている「個人」の考え方がいかに深く自分の意識の中に浸透してしまっているかということを知る。そこから、禅の修行が始まる。

ポストモダンニズムの思想においては、「個人」もまた脱構築されているようである。「私」は存在しないなどと言いつける論者も④サン見する。(b)、「私」と「他者」の区別は、今日の社会において「B」として存在する。「個人」という考え方はなしでは、私たちの社会は一日たりとも進行しないのである。その意味では、この世の実態を無視した「斬新」な思想は、はじめは威勢が良いがあとで「A」とする学生たちのようなものになりかねない。

時代精神は移ろいゆく。歴史を振り返れば、確かに、個人という考え方があまり強くない時代もあったかもしれない。大英博物館にある名品の一つ、古代アッシリアの『ライオン狩り』の巨大なレリーフは、ライオンを狩る人々の姿を描く。狩りに出る人間たちは、すべて横顔で描かれる。彼らは一様に無表情で、どれも同じように見える。矢が刺さり、死に行くライオンたちの有り様の方が、(c)個性的ですらある。似たような精神性は、古代エジプトのある種の絵画にも感じることがある。

(d)、古代アッシリアの人たちにも、個人の概念がなかったわけではあるまい。人が社会をつくるどころ、所有の概念があり、家族や⑤血エインができる。誰が誰の子どもか、彼らが気にしなかったとは到底考えられない。しかし、『ライオン狩り』の絵画表現から判断するに、一人ひとりが交換不可能なかけがえのない個人であるという考え方は、2それに呼応する絵画表現を生み出すまでには成熟していなかったようである。

現代は、「個人」がなければ「ウ」。「スタジアムに野球の観戦に来ている人たちの顔を、古代アッシリアの『ライオン狩り』と同じような手法ですべて同じ表情で描いたとしたら、見る者に違和感を与えるだろう。ど

んなに平凡な人でも、自分が「個人」として扱われることに慣れている。それが、現代の時代精神である。
3 資本主義はそうでなければ成り立たなかつたのである。

茂木健一郎「生命と偶有性」による

問一 ①～⑤の熟語のカタカナの部分の漢字として最も適当なものをそれぞれ①～④の中から選んで記号で答えよ。

- | | | | | | | | | | | | |
|------|----|----|----|----|---------|------|----|----|----|----|---------|
| ①凡ヨウ | ①幼 | ②陽 | ③踊 | ④庸 | 【解答番号1】 | ②カツ采 | ①褐 | ②渴 | ③喝 | ④葛 | 【解答番号2】 |
| ③紹カイ | ①会 | ②介 | ③回 | ④芥 | 【解答番号3】 | ④サン見 | ①散 | ②参 | ③贊 | ④讚 | 【解答番号4】 |
| ⑤血エン | ①延 | ②援 | ③演 | ④縁 | 【解答番号5】 | | | | | | |

問二 「ア」には「人を笑わせて話の終わりにする」、「イ」には「相手に余裕を与えずにものごとを続けざまに行う」、「ウ」には「それがなければ何も始まらない大前提である」という意味の言葉が入るが、「ア」～「ウ」に入る言葉として適当なものを次の中からそれぞれ選んで記号で答えよ。

- | | | | | | |
|-----|--------|---------|-----------|---------|---------|
| 「ア」 | ①ソツがない | ②コツがある | ③オチがある | ④ネタがあがる | 【解答番号6】 |
| 「イ」 | ①鼻にかける | ②ふっかける | ③かまをかける | ④たたみかける | 【解答番号7】 |
| 「ウ」 | ①夜を徹する | ②夜を日に継ぐ | ③夜も日も明けない | ④夜の衣を返す | 【解答番号8】 |

問三 波線部X、Y、Zの読みとして最も適当なものをそれぞれ①～④の中から選んで記号で答えよ。

- | | | | | | |
|------|---------|--------|------|-------|----------|
| X 執る | 【①いきどおる | ②つかさどる | ③にぎる | ④とる | 【解答番号9】 |
| Y 領く | 【①うなづく | ②どよめく | ③うめく | ④うごめく | 【解答番号10】 |
| Z 杵 | 【①いき | ②わく | ③いげた | ④いがた | 【解答番号11】 |

問四 「A、Bに入る言葉として最も適当なものをそれぞれ次の①～⑤の中から一つ選んで記号で答えよ。
解答番号は、Aが12 Bが13

- ①泰然 ②悄然 ③漫然 ④悠然 ⑤巖然

問五 () a、dに入る言葉として適当なものをそれぞれ①～④の中から選んで記号で答えよ。

解答番号は aが14 bが15 cが16 dが17

- ①しかし ②むろん ③しかも ④むしろ

問六 傍線部1「そのような文脈に投げ込まれなければ気が付かぬことがある」の説明として最も適当なものを次の①～④の中から一つ選んで記号で答えよ。解答番号は18

- ①「クレジットのメカニズム」が通用する社会で生きていかなければ、栄達や富裕に向かって鋭意努力を積み重ねる意味が分らない。
②個人を前提にした思考の枠組みが解体されるような不条理な世界で生きていくと、「個人など幻想だ」ということを実感として分かる。
③俗世の豊かさの追求とは違う高い精神性を追求する世界に身を置かなければ、交換不可能なかけがえのない個人の概念が分らない。
④禅の修行という現世の欲を離れたところに身をおいてみると、世間の毀誉褒貶がいかに個人の営為や欲と深く結びついているかが分かる。

問七 傍線部2「それに呼応する絵画表現を生み出すまでには成熟していなかつたようである」の説明として最も適当なものを次の①～④の中から一つ選んで記号で答えよ。解答番号は19

- ①古代アッシリアの人々には個人の意識がないことはないが、狩りに出る人間をすべて同じ横顔で描いても

違和感を抱くほどの鑑賞眼はないということ。

- ② 古代アッシリアの『ライオン狩り』の巨大なレリーフはライオンを中心に描かれているので、狩る人々の姿は群像として描かれているということ。
- ③ 個人という考え方があまり強くない時代には家族や血縁の関係も薄く、互いに個性のない相手と交際していたことが作品に表現されているということ。
- ④ 古代アッシリアの人々にも個人の意識はあつたと考えられるが、個性の違いを絵画で表現するところまで個人の意識は発達してはいなかったということ。

問八 傍線部3「資本主義はそうでなければ成り立たなかつたのである」の説明として最も適当なものを次の

①～④の中から一つ選んで記号で答えよ。解答番号は20

- ① 「個人」を基礎にものを考える小さな商店と巨大商業施設とは競争できないということ。
- ② 個人主義が浸透しにくい日本では成果主義や自由競争が根付くには時間がかかるということ。
- ③ 資本主義は個人の自由な利潤追求や個人の自由な消費をその根幹としているということ。
- ④ 人は交換可能だという考え方が労働者を資本と見る資本主義を成立させているということ。

二 次の文章は、「私」と「津村」が、奈良県吉野の山深い村の大谷家を、源義経と静御前の伝説を調査に訪れた場面である。よく読んで後の問に答えよ。

私たちが辞して帰ろうとすると、

1 「何もお構い出来ませぬが、ずくしを召し上がって下さいませ。」

と、主人は茶を入れてくれたりして、盆に盛つた柿の実に灰aの這入っていない空の火入れを添えて出した。ずくしは蓋し熟柿(じゅくし)であろう。空の火入れは煙草の吸い殻を捨てるためのものではなく、どろどろに熟れた柿の実を、その器に受けて食うAのであろう。しきりにすすめられるままに、私は今にも崩れそうなの実の一つをこわごわ手のひらの上に載せてみた。円錐形の、尻の尖つた大きな柿であるが、真つ赤に熟し切つて半透明になつた果実は、I恰(あたか)もゴムの袋の如く①フくらんでぶくぶくしながら、日に透かすと※ろうかんの珠bのように美しい。市中に売っている樽柿などは、どんなに熟れてもこんな見事な色にはならないし、こう柔らかくなる前に形がぐづぐづに崩れてしまう。主人が云うcのに、ずくしを作るには皮の厚い美濃柿に限る。それがまだ固く②シブい時分に枝からもいで、成るべく風のあたらない処へ、箱か籠に入れておく。そうして十日程たてば何の人工も加えないで自然に皮の中が半流動体になり、甘露のような甘みを持つ。外の柿だと中味が水のように融けてしまつて、美濃柿の如くねっとりしたものにならない。此れを食うには半熟の卵を食うようにへたを抜き取つて、その穴から匙(きじ)ですくう法もあるが、矢張(やはり)手はよごれても、器に受けて、皮を剥いでたべる方が美味である。しかし眺めても美しく、たべてもおいしいdのは、丁度十日目頃の③ワズかな期間で、それ以上日が立てば、ずくしも遂に水になつてしまふと云う。

そんな話を聞きながら、私は④シバラく手の上にあるII※一顆(いちか)の露の玉に見入つた。そして2自分の手のひらの中に、此の山間の靈氣と日光が凝り固まつた気がした。3昔田舎者が京へ上ると、都の土を一と握り紙に包んで土産にしたと聞いているが、私もし誰かから、吉野の秋の色を問われたら、此の柿の実を大切に持ち帰つて示すであろう。

結局大谷氏の家で感心したものは、鼓よりも古文書よりも、ずくしであった。津村も私も、齒ぐきから腸の底へ込み徹る冷たさを喜びつつ甘い粘つこい柿の実を⑤ムサボるように二つまで食べた。私は自分の口腔にIII吉野の秋を一杯に頬張つた。4思うに仏典中にある※菴摩羅果もこれ程美味ではなかつたかも知れない。

谷崎潤一郎「吉野葛」による

※ ろうかん↓濃緑色の宝石の名 一顆(いちか)↓一粒 菴摩羅果↓果物の名前

問一 傍線部①～⑤のカタカナの部分の漢字を使用した熟語として適当なものをそれぞれ①～⑤の中から選んで記号で答えよ。解答番号は、①が21 ②が22 ③が23 ④が24 ⑤が25

- ① バク大な財産
- ② キン少差で勝利
- ③ ドン欲に吸収する
- ④ 悪天候のため通行に難ジュウする
- ⑤ ポウ大な量
- ⑥ キン賀新年
- ⑦ ザン時の猶予
- ⑧ ゼン次良くなる
- ⑨ 辛サンをなめる

問二 傍線部Ⅰの「何もお構い出来ませぬが、ずくしを召し上がって下さいませ」の中の「ア」お構い「イ」出来ませぬ「ウ」召し上がって」は、この場面ではそれぞれどのような敬語に分類されるか、後の①～③の中から選んでそれぞれ記号で答えよ。解答番号は、ア 26 イ 27 ウ 28

語群 ①尊敬 ②謙譲 ③丁寧

問三 波線部Ⅰ～Ⅲの比喩の説明として適当なものを次の①および②からそれぞれ一つ選んで記号で答えよ。

解答番号は、Ⅰが 29 Ⅱが 30 Ⅲが 31

① 直喩 ② 暗喩

問四 傍線部A「器に受けて食うのであろう」の「の」と最も近い文法的な働きとなっているものを次の①～④の中から一つ選んで記号で答えよ。解答番号は、32

① a 灰の這入っていない ② b ろうかんの珠のように
③ c 主人が云うのに ④ d たべてもおいしいのは

問五 傍線部「自分の手のひらの中に、此の山間の靈氣と日光が凝り固まった気がした。」の説明として最も適当なものを次の①～④の中から一つ選んで記号で答えよ。解答番号は、33

① 吉野の環境・風土とこの土地の人の知恵と人情が凝縮した一つの食文化を感謝していただくという気持ち
② 吉野の山の靈魂と日光が作り出した熟柿を旬の時期に独り占めして食べることに密かに優越感を抱く気持ち
③ 吉野の山の自然環境と土地の人々の秘伝の技術で作った熟柿を緊張のあまり食べるのを躊躇する気持ち
④ 吉野の山でしか味わえない美味な熟柿を初めてふるまってもらったが食べる方法が分からず困惑する気持ち

問六 傍線部「昔田舎者が京へ上ると、都の土を一と握り紙に包んで土産にした」の説明として最も適当なものを次の①～④の中から一つ選んで記号で答えよ。解答番号は、34

① 都の様子が珍しいだけの昔の田舎者は義理人情に縛られた日常生活から脱しきれず、仕方なくただで手に入る都の土を故郷の村人に持つて帰ることによって義理を果たしていた。
② 上京など容易でない昔の田舎者は、都の土を自分の家に撒くことによって都の人と同じようなステータスを手に入れ、故郷の隣人たちに対して優越感を得たいと感じている。
③ 滅多に上京できない昔の田舎者は、都の風土やにぎわいを目の当たりにした感動を故郷の人々と共有したいので都にしかない都の土を土産にするという土産の本質を示している。
④ 家族全員で旅行のできなかった昔の貧しい田舎者は、自分ひとりがありがたいめにあったので、金を出して買う土産より価値が高いと考えられていた都の土を持つて帰った。

問七 傍線部「思うに仏典中にある菴摩羅果もこれ程美味ではなかったかも知れない。」の説明として最も適当なものを次の①～④の中から一つ選んで記号で答えよ。解答番号は、35

① 煙草の灰皿に柿の実をのせるといふ意表をついた形でもてなす主人の心が、かえって素材に感じられて好感を抱き、仏様のような寛大な心で食べた。
② 味そのもののおいしさに、律儀に伝統的な製造法を守り、心底からおいしいものでもてなしたいという主人の心が加わり、おいしさを一段と引き立てた。
③ 仏典の中にある想像上のくだものを引き合いに出すことによってこの柿がいかにおいしいかを読者に想像させ吉野の宗教的背景も知らせたい。
④ 吉野に残されている文化的価値の高い古文書や伝承などよりは、現在の吉野の食文化ほうがより高い水準で受け継がれていることを十分に理解した。

問八 この文章の表現の特色として最も適当でないものを次の①～④の中から一つ選んで記号で答えよ。解答番号は、**36**

- ① おいしいものをその姿が目の前に現れるように描いて、読者も食欲をそえられるように表現されている。
- ② 登場人物のまごころや人となり、露骨でない形でじわりとにじみ出てくるように表現されている。
- ③ 吉野という風土の純朴さや主人公の感謝の気持ち、がしみと分かるように婉曲的に表現されている。
- ④ 宗教的で教訓めいた内容が古風な言葉遣いで書かれているので現代人にはやや難解な表現となっている。

問九 次の作品の中で谷崎潤一郎の作品でないものを一つ選んで記号で答えよ。解答番号は、**37**

- ① 痴人の愛
- ② 春琴抄
- ③ 彼岸過迄
- ④ 細雪
- ⑤ 刺青

三 A 次の文章の空欄(1)～(3)に入る人物として最も適当なものを後の人物群からそれぞれ選んで記号で答えよ。解答番号は、(1)が**38** (2)が**39** (3)が**40**

近代短歌は、明治のころに落合直文が浅香社を結成して短歌革新の啓蒙的役割を果たしたことはじまる。その後、佐佐木信綱が竹柏会を、(1)が新詩社を、(2)が根岸短歌会を結成しそれぞれの活動を通して近代短歌は革新・進展していった。(1)は雑誌「明星」を創刊し、夫人とともに浪漫主義短歌の全盛を築いた。同じグループの歌人に石川啄木、北原白秋などがある。

一方、(2)は写生の短歌を主張し、彼の死後、(3)は明治四十一年に雑誌「アララギ」を創刊し、写生説を継承した。同じグループの歌人に長塚節、斎藤茂吉などいる。

- ① 伊藤左千夫
- ② 与謝野鉄幹
- ③ 正岡子規
- ④ 大伴家持
- ⑤ 高村光太郎
- ⑥ 島崎藤村

B 次の歌人の歌集をそれぞれ後から選べ。解答番号は、**41**～**45**

- | | | | | | |
|--------|----------------|--------|----------------|--------|----------------|
| 1 若山牧水 | 解答番号 41 | 2 石川啄木 | 解答番号 42 | 3 北原白秋 | 解答番号 43 |
| 4 長塚節 | 解答番号 44 | 5 斎藤茂吉 | 解答番号 45 | | |

- ① 桐の花
- ② 海の声
- ③ みだれ髪
- ④ 鍼の如く
- ⑤ 海やまのあひだ
- ⑥ 赤光
- ⑦ 東西南北
- ⑧ 一握の砂

四 次にあげる四字熟語の□の中に適切な漢字を入れて四字熟語として完成させよ。答えはそれぞれ①～④の中から一つ選んで記号で答えよ。

- | | | | |
|----------------------------|----------------|----------------------------|----------------|
| ア 一網打□ (1)尽 (2)撃 (3)点 (4)破 | 解答番号 46 | イ 右往左□ (1)隣 (2)来 (3)去 (4)往 | 解答番号 47 |
| ウ □散霧消 (1)飛 (2)雲 (3)雪 (4)解 | 解答番号 48 | エ 起□転結 (1)賞 (2)抄 (3)承 (4)称 | 解答番号 49 |
| オ □下水人 (1)足 (2)落 (3)月 (4)以 | 解答番号 50 | カ 吳越同□ (1)衆 (2)習 (3)舟 (4)愁 | 解答番号 51 |
| キ 千載一□ (1)寓 (2)偶 (3)隅 (4)遇 | 解答番号 52 | ク 朝令□改 (1)更 (2)撤 (3)即 (4)暮 | 解答番号 53 |
| ケ 内憂外□ (1)樂 (2)患 (3)喜 (4)憂 | 解答番号 54 | コ □方美人 (1)地 (2)八 (3)先 (4)上 | 解答番号 55 |

五 次の□の中に適切な鳥の名を入れて慣用句やことわざを完成させよ。答えはそれぞれの語群から選んで記号で答えよ。

- | | | | |
|---------------|----------------|---------------|----------------|
| ア □の行水 | 解答番号 56 | イ 鶉の目□の目 | 解答番号 57 |
| ウ □百まで踊り忘れず | 解答番号 58 | エ □も鳴かずば打たれまい | 解答番号 59 |
| オ □に油揚げをさらわれる | 解答番号 60 | | |

- ① 燕
- ② 鶴
- ③ 鳥
- ④ 鷹
- ⑤ 鳶
- ⑥ 雀
- ⑦ 雁
- ⑧ 鷺
- ⑨ 雉